

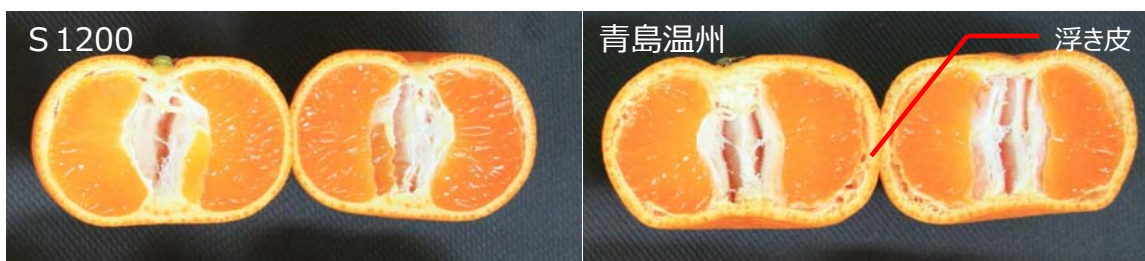
静岡県試験研究10大トピックス（ 農林技術研究所 ）

<p>タイトル</p>	<p>地球温暖化に適応した温州みかんの新系統の育成</p>	<p>研究課題名 期間</p>	<p>しずおかオリジナル果樹品種の育成と適応性検定(平成28年度～令和2年度)</p>
<p>所属</p>	<p>農林技術研究所果樹研究センター</p>	<p>補職名 研究者名</p>	<p>上席研究員 中村茂和</p>
		<p>問合せ先</p>	<p>054-376-6153</p>
<p>研究概要</p>	<p><b>【背景・ねらい】</b>                  温州みかん栽培においては、温暖化による果実品質の不安定(浮き皮果発生、貯蔵中の腐敗果増加)や‘青島温州’偏重による収穫時の労力集中が生産上の課題となっている。                  このため、浮き皮果が発生し難く、貯蔵性が高く、‘青島温州’と同品質以上かつ収穫時期が異なる温州みかんの開発を目指した。</p> <p><b>【成果の内容・特徴】</b>                  ・新品種(系統名「S1200」)は、平成13年度に理化学研究所において中間母本「S1152(青島温州系統)」の穂木に重イオンビームを照射(共同研究)した後、接ぎ木・育成した苗木約100本の中から1次選抜、2次選抜、最終選抜を経て選抜した。                  ・「S1200」は、‘青島温州’と同等以上の糖度、酸度で高品質、かつ貯蔵性が高い。特に、浮き皮果が発生し難く、収穫時期が‘青島温州’より約1ヶ月遅いため、収穫労力の分散に寄与できるとともに、近年マーケットニーズが高まっている3～4月に良質な果実を出荷できる。</p> <p><b>【成果の活用・留意点】</b>                  ・令和元年度中に種苗法に基づく品種登録出願を行う。                  ・早期に栽培体系を確立して県内に普及させるため、JA静岡経済連、各JA、農林事務所等と連携して東・中・西部地域において現地栽培実証圃を設置し、地域適応性の調査を行う。</p>		

【S1200の収穫・出荷体系】

	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
S1200			☆.....☆ 収穫	→ 貯蔵		● → 貯蔵・出荷		
青島温州		☆.....☆ 収穫	●	→ 貯蔵・出荷				
青島温州 (冷風貯蔵)		☆.....☆ 収穫		→ 貯蔵		● → 貯蔵・出荷		

[S1200の収穫・出荷体系]



[S1200と青島温州の果実]

	浮皮度※	糖度	クエン酸
<b>収穫時</b> (12月中旬)	<b>S1200</b> 0.0	<b>12.7</b>	<b>0.89</b>
青島温州	0.1	12.3	0.79
↓			
<b>貯蔵後</b> (5月初旬)	<b>S1200</b> <u>1.0</u>	<u>14.0</u>	<u>0.57</u>
青島温州	2.5	12.3	0.32

※0:無、1:軽、2:中、3:甚

[S1200の果実品質の推移]